

会 報

平成 28 年 7 月 31 日 発行

「本学会の成長を目指して」

副会長 鈴木 漢（帝京大学教育学部）

本学会は、「体育・スポーツ行政研究会」（旧名称）として発足し、設立記念大会を平成 3 年 3 月、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催して以来、四半世紀を迎えました。

当時のプログラムあいさつ文に、初代会長・前田充明氏は「国民生活の質の向上が課題とされる今日、体育・スポーツに対する国民の関心は、著しく高まり、生活の一部として多様な活動が実践され、明るく、心ゆたかな生活の実現に寄与しています。かかる盛況は、余暇時間や所得の増大などの要因のほか、社会の変化に対応した体育・スポーツ行政の適切な執行に負うところ大であったと確信するものであります。」と述べられております。

この言葉には、会創設への“意気込み”と、国・地方自治体の体育・スポーツ行政が重要な役割を担うべきとの“誇りと責任”を意識し、常に国民の視点立って中長期的展望をしつつ行政を進めよう、という溢れんばかりの強い意志が感じられます。

また、この背景には、平成元年 11 月の保健体育審議会答申「21 世紀に向けたスポーツの振興方策について」の中で“スポーツは、個々人の心身の発達に資するとともに明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与するものであり、また、世界共通の人類の文化の一つである。（以下省略）”と述べられた内容を必ずや実現したいとの個人的な思いがあったと推察されます。

以来、本学会は、体育・スポーツを取り巻く時代の変化に敏感に対応しつつ、歴代会長のリーダーシップの下、理事長・理事・事務局長はじめ会員の皆様等のご尽力により、一歩ずつ着実に歩んで来たといえましょう。（ここに改めて諸先輩の方々に御礼を申し上げます。）

さて、文化としてのスポーツを考えた時、故・木村尚三郎氏（西洋史学者）の著書「耕す文化の時代」の一文が想起されます。木村氏はその中で、本来、耕すという意味を持つ「文化」の条件を満たす三つの要素について、「第一に土の匂いを求め、第二に自分なりの創造活動に従事し、それによって生活を向上させ、第三に、そのような営みこそ真に人間

的なものであるとして楽しむ。」ことと語っておられます。

敢えて、これになぞらえて言えば、文化としてのスポーツとは、スポーツの薫るような魅力を求め、自分なりの創造的なスポーツ活動を行ない、生活を向上させ、その上で、豊かなスポーツ生活を人間的なものとして楽しむこと、ということになりましょうか。

「スポーツ基本法」が制定され、これに基づいた一元的な体育・スポーツ政策の推進を図る目的で「スポーツ庁」が設置された今こそ、改めて、“スポーツ文化という果実の収穫を楽しむこと”ができるような社会を是非とも実現させたいものです。

広義の生涯スポーツ社会を構築するためには、政策立案はもとより、行政による適切な施策実行、それを学術的に分析し方向性を提言する研究、三つ側面が連携し、好循環を生み出していくことが求められます。

したがって、本学会の今後の使命は、研究者、政策立案者、行政関係者が、現実を見つめ課題を共有し、理想的な政策や実現可能な政策に関する研究を深め、日本の体育・スポーツ政策の方向性について、提言できるような学会に成長することにあると考えます。そこで、もう一度原点に戻って、本学会の存在意義を改めて意識しつつ、研究者のみならず政策・行政関係者の多数の参加を促し、次の4半世紀の歴史に繋げて行きたいものと思えます。学会員各位の今後一層のご協力とご精進をお願い申し上げます。

第24回日本体育・スポーツ政策学会報告 学会大会を終えて

大会実行委員長 松田恵示（東京学芸大学）

まずは、本報告が2年間遅れてしまいましたことをこころよりお詫び申し上げます。第24回の日本体育・スポーツ政策学会は、東京学芸大学を会場にして、平成26年12月7日(土)に開催されました。15題の一般発表、「スポーツ政策の現在とこれから」と題された笠原一也会長の基調講演、そして「日本におけるスポーツ政策の政策決定について-スポーツ庁設置を中心として」と題されたシンポジウム、理事会や総会、さらには懇親会を内容として、約100名の当日の参加者を得ました。あらためまして、ご参加ならびに運営にご尽力いただきました多くの会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

シンポジウムでは、日本の体育・スポーツ政

策史上、大きな転換点となるであろうスポーツ庁の設置、という変革を受けて、芦立訓氏(文部科学省審議官)、笠原一也氏(本学会会長)、鈴木知幸氏(順天堂大学)、境田正樹氏(弁護士・スポーツ庁有識者会議委員)にシンポジストをお願いし、白旗和也氏(日本体育大学教授・前文部科学省教科調査官)をコメンテーターとしてお願いする形で、フロアを含めた活発な議論が展開されました。その具体的な様子は、「体育・スポーツ社会学研究24巻」に詳しく掲載されています。併せてご覧いただけましたら幸いです。

シンポジウムでは、また地域に対しても広く公開したこともあり、様々な方々の参加をいただきました。体育やスポーツの政策をめぐっては、今後、社会や研究シーンの変化とも連なっており、より広範なネットワークの形成が図られる必要が強まってくると思います。そのようなネットワークの拠点の一つとしての学会の機能も、今後、さらにどのように充実・発展させていけば良いのかを改めて考えさせてくれる契機とな

ったようにも思いました。重ねまして、会員の皆様、至らぬ点も多かったとは思いますが、本当にありがとうございました。

《大会参加報告 (24 回大会) 》

学会大会を終えて

松本綾子 (同志社大学大学院)

日本体育・スポーツ政策学会第 24 回大会に参加させて頂きました、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程 2 年の松本綾子と申します。学会大会には、昨年と一昨年も参加させて頂きましたが、今年は修士論文執筆中ということもあり、一般研究発表をさせて頂きました。まずは、発表という貴重な機会を頂けたことに感謝申し上げます。

私は、「ユースオリンピックにおける文化・教育プログラムの一考察—スポーツを通じた開発を視点に—」という題目で、ユースオリンピックにおける開発途上国の「内なるリーダー」育成の可能性について発表させて頂きました。緊張しながらの発表でしたが、質疑応答では、ユースオリンピックというビッグイベントに着目する意義や、ユースオリンピックの掲げる理念と開発途上国の現実との乖離について等、貴重なご意見を頂戴することができました。自身の勉強不足を痛感すると共に課題が明確となり、修士論文の完成に向けて今後益々研究に打ち込む必要があると感じました。また、他の先生方の一般発表では、多様な分野の研究を伺うことができ、大変刺激を受けました。

基調講演とシンポジウムでは、スポーツ庁の設置を中心とした日本におけるスポーツ政策の動向について伺いました。その中でも、スポーツ庁の設置に関する最新の動きを現場の先生方

から直接伺えたことは、非常に貴重な体験であり、大変勉強になりました。そして、現在のスポーツ政策は、2020 年の東京オリンピックをどのようにするかといった議論が中心となつていますが、オリンピック終了後のことを踏まえた議論が今後は重要であることを強く感じました。

最後になりましたが、発表にあたりご指導くださった先生方、ご意見をくださった先生方、貴重なお話をしてくださった先生方、本学会大会の準備・運営をしてくださった先生方等、このような貴重な機会を与えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

第 25 回日本体育・スポーツ政策学会報告 学会大会を終えて

大会実行委員長 松田恵示 (東京学芸大学)

学会の 25 周年記念大会となりました第 25 回学会大会は、平成 27 年 12 月 20 日(日)に、第 24 回大会に引き続いて、東京学芸大学で開催されました。約 120 名の参加者のもと、一般発表、特別講演、シンポジウム、25 周年祝賀パーティー、理事会、総会が行われました。特別講演では、スポーツ庁の高橋道と次長から、「スポーツ庁の開設とこれからの体育・スポーツ政策」をテーマにお話をいただきました。また、シンポジウムでは、菊幸一氏(筑波大学)の司会のもと、高田彬成氏(スポーツ庁政策課教科調査官)、西川嘉彦氏(尼崎市教育委員会 学校教育部長)吉田勝光氏(桐蔭横浜大学)、松田恵示(東京学芸大学)の 4 名をシンポジストとして、「さらにはコメンテーターに小川泰永氏(岡山県教育庁保健体育課副課長)を迎えて、スポーツ庁の開設とスポーツ政策・学校体育と生涯スポーツ推進に焦点づけて」と題した討議が展開されました。

25 周年祝賀パーティーでは、本学会の歴史やエピソードなどを多くの出席者からご紹介いただき、大変和やかで活気のある場となりました。

前身の体育・スポーツ行政研究会からの歴史を振り返るとともに、これからの 25 年、あるいは 50 年を歩み出す、竹の節のひとつが刻まれたような思いでいっぱいとなっております。ご参加くださった会員の皆様には、ほんとうにいろいろとありがとうございました。ここに改めまして、厚く御礼申し上げます。

《大会参加報告 (25 回大会)》

日本体育・スポーツ政策学会に参加して

小林 壘 (同志社大学大学院)

私は現在、同志社大学大学院総合政策科学研究科にて、「スポーツ放送をめぐる政策分析～公共性を視点に～」というテーマで研究を行っております。元々、同志社大学大学院の修士課程在籍時には、メディア社会学の視点から、スポーツ放送に関する研究を行っていたのですが、博士課程では、より研究を前進させるべく、公共政策の領域からスポーツ放送のあり方を考察しております。

この度は、自分の研究を、スポーツ政策の視点からより多角的かつ重層的に捉えることを目的とし、本学会に参加させて頂きました。本学会への参加は初めてということもあり、発表本番前には不安もあったのですが、発表後には、「公共性とスポーツ」に関するご指摘も頂くことができ、自分にとっては大変有意義なものでした。スポーツ政策の領域で様々な研究をされている方々と、こうして交流をさせて頂くことは、自分の研究を客観的に見つめ直す貴重な機会であると改めて感じた次第です。

また、学会当日は、スポーツ庁の関係者の方による講演や、体育とスポーツに関するシンポジウムなども参加させて頂きましたが、中でも、「教育分野におけるスポーツの優位性」についての議論は興味深いものでした。これらの様々な議論を通して、「何のためにスポーツがあるのか」「スポーツとは何か」という根底的な課題を、もう一度考え直す必要があると感じました。今後も、こうした研究発表大会があれば、是非とも参加させて頂きたい所存です。

最後に、この度の研究発表に関して、貴重な機会を提供して下さいました本学会の関係者の皆様、私の研究内容に関して様々なご意見を下さった大学院生の皆様、そして、未熟な私の研究に最後まで熱心にご指導を下さった指導教授の先生に深く御礼を申し上げます。

日本体育・スポーツ政策学会第 25 回大会に参加して

清水友輔 (東京学芸大学大学院)

この度、12 月 20 日に東京学芸大学で開催されました、日本・体育スポーツ政策学会第 25 回大会に参加させて頂きました。

私は、学習者を運動に内発的に動機づける体育授業を検討するにあたって「選択制授業」や「学習指導要領」という面から研究を行い、発表させて頂きました。発表させて頂いたことはもちろんのこと、座長の内海先生をはじめ、多くの先生方からご指導を頂き、今後の研究を取り組むにあたって多くの刺激を頂きました。また、他の先生方の研究発表では、運動部活動や地方スポーツなど、様々な視点から語られた非常に興味深い研究を知ることができ、スポーツ政策の重要性を感じると共に、今後益々研究に

打ち込む必要性を強く感じました。

スポーツ庁の高橋道和先生による特別講演では、「スポーツ庁の開設とこれからの体育・スポーツ政策」という、今まさに注目されている内容について貴重なお話を拝聴することができました。さらに、シンポジウムでは学校体育と生涯スポーツに焦点づけたスポーツ庁の開設とスポーツ政策について、先生方の興味深いお話を拝聴でき、大変勉強になりました。特にパネリストの先生方から普段知ることのできないような様々なご意見を伺うことができ、新たな知見を広げることができました。また、フロアーからは厳しいご指摘をなさる先生もいらっしゃり、そこから議論が生まれ、内容がより一層

深まっていくことを実感しました。そこにこそ、学会という場の意義を強く感じ、私自身、さらに研究に邁進する必要があると強く感じました。

学会 25 周年祝賀パーティーでは多くの先生方とお話しさせて頂く機会を得られました。中でもスポーツ庁政策課教科調査官の高田先生には学校とスポーツ政策について深くお話し頂き、大変貴重な経験となりました。

一日を通して、これまであまり触れることのでなかったスポーツと政策について深く考えさせられる機会となり、本学会に参加させて頂いたことは私の貴重な財産となりました。最後になりましたが、本学会大会の準備・運営をして頂きました先生方に感謝申し上げます。

第 26 回学会大会案内

第 26 回学会大会は、神戸親和女子大学（兵庫県・神戸市）にて 12 月 4 日（日）に開催される予定です。詳細が決まりましたら、改めてご案内をお送りさせていただきます。

学会員の皆様におかれましては、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

《平成 26.27 年度理事会報告》

【平成 26 年度・第 2 回理事会】

日時：平成 26 年 9 月 13 日（土）

場所：筑波大学・東京キャンパス

【審議事項】

- (1) 新入会・退会者の承認
- (2) 会長選挙について
- (3) 平成 26 年度学会大会について（シンポジウム、その他準備状況）
- (4) 総会の議事について

(5) 平成 26 年度「学会賞」「奨励賞」の推薦締切の延長について

【報告事項】

- (1) 研究誌発行について
- (2) 会報の発行について
- (3) セミナーの開催について

【平成 26 年度・第 3 回理事会】

日時：平成 26 年 12 月 7 日（日）

場所：東京学芸大学

【審議事項】

- (1) 平成 26 年度第 2 回理事会議事録(案)の確認
- (2) 平成 26 年度総会について
 - ・平成 25 年度事業報告
 - ・平成 25 年度収支決算
 - ・平成 27 年度事業計画
 - ・平成 27 年度収支予算
 - ・平成 26 年度事業報告

- ・会長選挙規定
 - ・平成 27～28 年度学会役員案
 - (3) 平成 26 年度学会大会について
 - ・大会運営について
 - ・予算について
 - ・その他
 - (4) 学会賞、奨励賞について
 - (5) 会長選挙について
 - (6) 次期理事について
 - (7) 新規入会・退会について
- 【平成 26 年度・第 4 回理事会】
- 日時：平成 25 年 3 月 25 日（水）
- 場所：筑波大学・東京キャンパス
- 【審議事項】
- (1) 平成 25 年度第 3 回理事会議事録(案)の確認
 - (2) 平成 25 年度総会議事録(案)の確認
 - (3) 平成 25 年度学会大会について
 - (4) 学会大会の決算（収支）
 - (5) 新入会員の承認
 - (6) 会長選挙の結果報告
 - (7) 来年度の理事役割分担について
- 【報告・確認・依頼事項】
- (9) 会員数の報告
 - (10) 学会誌の発行状況
 - (11) 日本スポーツ体育健康科学学術連合・平成 27 年度前期補助金申請審査結果について

- 【平成 27 年度・第 1 回理事会】
- 日時：平成 27 年 4 月 25 日(土)
- 場所：筑波大学・東京キャンパス
- 【審議事項】
- ・平成 26 年度第 4 回理事会議事録(案)の確認
 - ・理事の役割分担（案）について
 - ・第 24 回学会大会決算について
 - ・新入会・退会者の承認
 - ・平成 27 年度学会大会について

- 【報告事項】
- ・研究誌発行について
 - ・会報の発行について
 - ・セミナーの開催について

- 【平成 27 年度・第 2 回理事会】
- 日時：平成 27 年 6 月 7 日（日）
- 場所：筑波大学・東京キャンパス

- 【審議事項】
- ・平成 26 年度第 1 回理事会議事録(案)の確認
 - ・新入会・退会者の承認
 - ・平成 26 年度決算報告
 - ・平成 27 年度学会大会について（準備状況、シンポジウム）

- 【平成 27 年度・第 3 回理事会】
- 日時：平成 27 年 9 月 7 日（日）
- 場所：筑波大学・東京キャンパス

- 【審議事項】
- ・平成 26 年度第 2 回理事会議事録(案)の確認について
 - ・新入会・退会者の承認
 - ・平成 26 年度決算報告
 - ・平成 27 年度学会大会について（準備進捗状況）
 - ・日本体育・スポーツ経営学会からの共催依頼について

- 【平成 27 年度・第 4 回理事会】
- 日時：平成 27 年 12 月 20 日（日）
- 場所：東京学芸大学

- 【審議事項】
- (1) 平成 27 年度第 3 回理事会議事録(案)の確認
 - (2) 平成 27 年度総会について
 - ・平成 26 年度事業報告
 - ・平成 28 年度事業計画

- ・平成 26 年度収支決算
- ・平成 28 年度収支予算
- (3) 平成 27 年度学会大会について
 - ・大会運営について
 - ・予算について
- (4) 学会賞、奨励賞について
- (5) 「スポーツ政策学」の教職免許科目への働きかけについて
- (6) 新規入会・退会について

【平成 27 年度・第 5 回理事会】

日時：平成 27 年 3 月 17 日（木）
場所：筑波大学・東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 27 年度第 4 回理事会議事録(案)の確認
- ・平成 27 年度総会議事録(案)の確認
- ・平成 27 年度学会大会について
- ・学会大会の決算（収支）
- ・平成 28 年度学会大会について
- ・学会賞、奨励賞について
- ・「スポーツ政策学」の教職免許科目への働きかけについて
- ・学会ホームページについて
- ・アジア政策学会創立準備委員会からの代表派遣依頼について
- ・新入会員の承認

《学会誌の原稿募集について》

学会誌「体育・スポーツ政策研究」の原稿を募集しております。投稿規定をご確認の上、下記編集委員会事務局メールアドレスへ、word ファイル形式の原稿をメール添付にてご送付ください。

神戸親和女子大学 田中聡研究室

「体育・スポーツ政策研究」編集委員会事務局
stanaka@kobe-shinwa.ac.jp

(〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町 7 丁目 13-1)

《平成 27 年度新入会員》

笹生心太（東京女子体育大学・東京女子体育短期大学）
水野弘隆（学生会員）（桐蔭横浜大学）
平塚卓也（筑波大学）
小林塁（学生会員）（同志社大学大学院）
宮良俊行（長崎国際大学）
坂本史生（東京学芸大こども未来研究所）
清水友輔（学生会員）（東京学芸大学大学院）
茂木宏子（学生会員）（筑波大学大学院）

《会員数》

平成 28 年 3 月 31 日現在の会員総数は、177 名です。入会を希望する方がございましたら、入会申し込み案内をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

《事務局便り》

◇住所変更などはお早めに事務局へ
ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変更がある方は、FAX 等にて至急事務局までご連絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い

平成 27 年度会費、前年度までの未納会費のお振込みをお願いいたします。

口座名：日本体育・スポーツ政策学会事務局
郵便口座 No. : 00130-4-561426

◇学会誌のバックナンバーについて

学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバックナンバーを 1 部 2 千円にて配布しております。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページの開設について

下記 URL でホームページが開設されました。

<http://www.geocities.jp/spolicy/>

日本体育・スポーツ政策学会 会報第 26 号

発行日：平成 28 年 7 月 31 日

発行人：日本体育・スポーツ政策学会

会長 笠原一也

編集：理事会広報担当 井上洋一

事務局：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学芸術スポーツ科学系

松田研究室内

Tel&Fax 042-329-7643

Email sportseisaku@gmail.com